

NPO法人エムアクト 活動報告書

【第2号】

2017年



オストメイトなび

2020年パブリック
に向けて
トイレ情報を絶賛
募集中です！！

日本の公共トイレと公衆トイレ



神戸代表理事

トイレは日本が誇る非常にすぐれた文化の一つだと思います。現在ではウォッシュレット機能や便座を温める機能、便座に座っている間にせせらぎ音色が流れるようなトイレまであり、これらは多くの公共トイレや公衆トイレ、そして個人宅においても設置されています。これは海外から日本へ訪れる方々からすれば、異様な光景に映るかもしれません。我々が開発してきた「オストメイトなび（オストメイト向けスマートフォンアプリ）」にて、取り上げているオストメイト対応多機能トイレも、このような日本のトイレ文化の一つの最終形であると言えます。今回はこのような日本のトイレ文化の成り立ちを少し語ってみたいと思います。

日本のトイレ文化において、特に街角や公園など、屋外空間に設置された独立するトイレを総称して「公衆トイレ」として考えることができますが、この歴史は古く元禄時代にさかのぼるようです。縁日などの人が大勢集まる場での無秩序な放尿を不衛生に思い、簡易なものを設置したのがその始まりとされています。加えて、現在のような行政が管理するような体制は、横浜港に来た外国人を考慮し、日本人が路傍で放尿する習慣を取り締まったのが最初とされ、これが明治4年、神奈川県による公衆便所設置にあたります。この際、「不潔な公衆便所は恥」という外国人からの訴えが当時の厚生大臣へ宛てられて新聞掲載されたとの文献が残っています。

このような流れで屋外に単独設置されてきた「公衆トイレ」ですが、現在では市役所や図書館などの公共施設内に設置する「公共トイレ」と呼ばれるものが主流になってきています。また、現在は民間の商業施設などでも、清潔かつ多機能なトイレを設置するところが増えてきました。加えて、「ユニバーサルデザイン」という視点が重要視され、年齢や性別、障害の有無にかかわらず、多様な属性の人が、容易に利用できるトイレ空間をデザインする流れになっています。日本国内にはとても素晴らしいトイレがたくさん設置されています。公共のトイレを利用される際は、ぜひ意識して利用してみるのも良いかもしれません。

整備の歴史と働きかけ



戦後の高度経済成長を迎えた日本において、公共トイレの課題は4Kでした。それは「怖い」「汚い」「暗い」「臭い」の4つです。このような現状を受けて、商業施設としてデパートを中心にトイレ改革がはじまり、この4Kを払拭すべくリニューアルの波が起こります。これらは自治体でのトイレ管理にも波及し、公共トイレに対する考え方を見直すこととなりました。4Kの解消に始まり、トイレは単なる排泄行為をする場から、それらの行為に付随した行為が行える場所、女性であれば、化粧や着替え、乳幼児を連れた方であれば、おむつ替えなどのニーズを満たす場が変わっていったわけです。このような流れは、ユニバーサルデザインとしてのトイレの在り方にも関係しています。

さて、右上のマークはよく目にするかと思いますが、これは1969年にアイルランドのダブリン市で開催された国際リハビリテーション協会総会で採択されたものです。車いすをデザインした様相ではありますが、すべての障害者を対象としたマークです。一方で、その施設要件などを確認すると身体障害者に限定された内容となっており、特に車いす使用者を想定した内容となっています。すべての障害者対象としたマークとしながらも、理想や目的、現実のギャップがそこにあったことも歴史的な事実です。そして、国内でも1970年代より福祉に主眼をおいた街づくりが広まり各地で障害者が使えるトイレの検討が行われ始めるのでした。

国は、1975年に「身体障害者の利用を考慮した設計資料」を作成、1982年には「身体障害者の利用を考慮した設計標準」を作成します。地方自治体においては、神戸市の「神戸市民の福祉を守る条例（1977年）」にて建築におけるバリアフリーが義務付けられたことを皮切りに、全国各地の自治体において条例等の策定が続きます。このようにして、一般の便房とは別に、車いす使用者を前提とした障害者トイレの設置に至ります。そして、このような障害者トイレ設置が進むことによって、現場からは様々な声が上がってくることもとなります。「設置場所が遠い」や「普段は施錠して必要な時のみ解錠するトイレがある」、「物置となり管理が滞っている」など、多くの課題があがってきました。お気づきの方も多いかと思いますが、これらの課題は現在においても完全には消えることはなく、継続して検討していくべき事項となっています。

さて、障害者トイレは時代とともに、健常者も空いていれば使用が可能な「共用トイレ」という形に変化していきます。利用できる対象者は拡大し、「多目的トイレ」や「多機能トイレ」、「だれでもトイレ」などと呼ばれ、トイレの外に表示されているサインも変化していきました。このころより、車いす使用者のための「直径1.5mの内接円の空間確保」や「更衣台」、「おむつ替えベッド」や「オストメイト用洗浄器具」などを設置するようになります。1994年に施行されたハートビル法では、高齢者・身体障害者等の利用を配慮した建築設計標準が示され、さらに2003年の改正ハートビル法では、「車いす使用者用便房」とともに「多機能便房」が表記されます。多機能化に伴い「乳幼児用のベッド」や「オストメイト用の流し台」の設置も表記され、身体が不自由な人に限定しない、多様なニーズに対応する制度設計がされていくことになっていきます。そして、2006年のバリアフリー法におけるトイレに関する項目では、いよいよ「オストメイト対応」が追加されることとなるわけです。そして、このような法制度の変化の裏には（公社）日本オストミー協会をはじめとする障害者団体の声が大きき影響を与えてきたことも事実です。現在の障害者福祉の環境は、先人の強力な働きかけという活動の成果であることを忘れてはいけません。

このようにして、発展を遂げてきた日本の公共トイレですが、新たな課題に直面しています。その一つが、多機能トイレの機能拡充により「多機能トイレを使う必要がある利用者が、使いたいのに使えない」という声が多く発生していることです。これは言い換えると、「身体特性に応じたトイレ」と「だれもが利用できるトイレ」という2つの考え方をどのように両立させるかという非常に難しい課題でもあります。多様化するトイレの状況を踏まえて、多機能トイレの利用集中を回避する策、機能分散という考え方が今後のトイレ計画における大きな焦点となってきそうです。このような日本のトイレの歴史を振り返り、2018年の今、本当に必要とされるトイレとは？その在り方について、2040年、2060年に向けて、どのような働きかけができるのかを引き続き検討していきたいと思っています。

（文責：神戸）

最近のオストメイト対応トイレ事情



浅野理事

「オストメイトなび」プロジェクトは、オストメイトが外出する際に、オストメイト対応の設備のある多機能トイレの場所探しに苦労しているという声を聞いて、対応設備のある多機能トイレの位置を、スマホの地図機能を使って探せるアプリの開発を目指す大学院生のボランティア活動から始まりました。NPO法人としてエムアクトが正式認定されてから2年、それ以前に任意団体で活動を始めてからは3年。ボランティアによりこの活動を続けています。私も縁あってこのNPOの活動に参加するようになって初めて、オストメイトという言葉を知り、排泄障害の方々の状態や排泄の状況を知りました。

最近では外出した際に意識して駅や空港、高速道路のSA（サービスエリア）、公共施設のトイレの状態を確認するようにしています。その際に気になることが、同じオストメイト対応の多機能トイレといっても設置されている設備に差が大きいことです。そこで、現在オストメイト用として設置されている多機能トイレの設備を比較してみました。

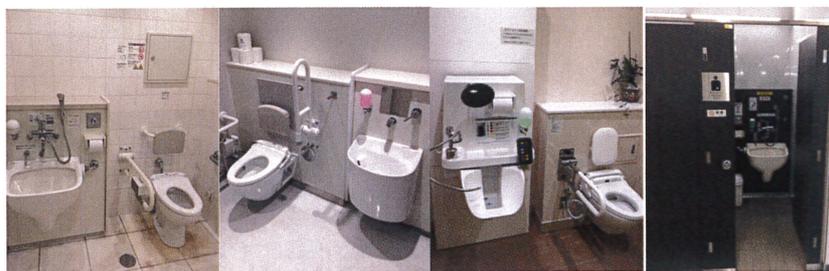
「便器に取付ける簡易型設備」と「汚物流し」

便器に取付ける簡易型設備で排泄処理する場合にはしびんの洗浄が目的と思われ、パウチの洗浄には少し難しそうです。中腰になる必要や高齢者の場合は便器前に膝をつくなど、身体へ負担がかかる姿勢になる場合があるそうです。（写真①②③）床に膝をついて処置を行う方の場合には、公共トイレの場合は床が濡れていたり汚れていたりする場合は、処置自体が困難な場合があるようです。それに対して汚物流し台であれば、楽な姿勢（立った状態）でできるため、安心して排泄処理やパウチの洗浄等ができると言われます。（写真④⑤⑥）また最新のものは、汚物流し台が上下前後に動き高さ調整も自在に出来る可動式のものも設置されています。（写真⑦）



①便器の中に固定された洗浄用の水栓があるもの
②左のボタンを押すと洗浄用の水が便器の中に出るもの
③便座の上に背もたれと可動式の水栓が付いているもの
④可動式の蛇口付き汚物流し

オストメイトには、一般トイレの利用を希望する人も多くいることから、今後は多機能トイレにだけでなく一般トイレ内への汚物流しを設置することも有効であると思われます。すでに新しい新東名高速道路のSAのトイレには、一般トイレの個室の奥の一つがオストメイト用として、便器がなく汚物流しだけが設置された個室になっています。（写真⑧）



⑤シャワー付き汚物流し
⑥収納シャワー付き汚物流し
⑦車いすのオストメイトも使える上下前後にも可動する可動式汚物流し
⑧一般トイレ内の汚物流しだけを設置した個室

ただし、これらは私が外出先で実際に確認出来たものだけですから、これ以外にももっと他のタイプのオストメイト設備もあるのかも知れません。

オストメイト対応トイレに必要なもの

ちょっと古いのですが、国土交通省が平成23年度に多機能トイレの利用実態を調査した報告書があります。「多機能トイレへの利用集中の実態把握と今後の方向性について -多様な利用者に配慮したトイレの整備方策に関する調査研究報告書のとりまとめ-」というこの報告書によると、2009年度末時点において身体障害者手帳交付登録数は約510万人であり、そのうち肢体不自由が約282万人（55.2%）と最も多くなっています。また、約140万人いる内部障害者のうちの、オストメイト（ぼうこう・直腸機能障害）は約18万人（これは障害者全体の3.5%、内部障害者の12.8%）であるとされています。（*現在ではオストメイトは20万人を超えています。）

この報告書にはオストメイトに対するアンケート調査もありました。いくつか抜粋して紹介してみます。外出時にオストメイトが最も使用するトイレの種類は、多機能トイレ、一般男子トイレ、一般女子トイレがそれぞれ30%前後で拮抗しています。オストメイトのトイレ利用の実態についてまだ学習中の私には、思っていたよりも一般トイレが使われていることは少し意外な結果でした。それに対してストーマ処理（パウチにたまった便を捨てるだけでなく、汚物漏れやストーマ装具の交換など、ストーマケアが必要になった状態）が必要な時に利用するトイレの種類では、多機能トイレが50%を超えて、一般男子トイレや一般女子トイレは20%前後となり、多機能トイレの利用が多くなります。さらにストーマ処理が必要な時に利用したトイレの設備としては、「便器」「荷物を置く台」「手洗い器」の順で回答が多く、次いで「汚物流し」「温水設備」「水石鹸」「フック」「鏡」「着替え台」「シャワー設備」の順と続いています。

また、この報告書には、多機能トイレの設置に関する主な基準の比較も紹介されています。オストメイト用の設備についても建築物・旅客施設・道路・都市公園でそれぞれに整備ガイドラインがあり、設置基準の内容も同一ではない現状が分かります。その他にも多機能トイレに関しての様々なアンケート結果の集計やいろいろな統計データが網羅されていました。この報告書をご存知ない方は、ご覧になってみてはいかがでしょうか。

（文責：浅野）

「オストメイトなび」の機能と利用状況

「オストメイトなび」はスマホアプリケーションとして、App Store (iOS版) とGoogle Play ストア (android版) にて無料ダウンロードが可能です。以下の6つの機能が実装されています。



01 オストメイト対応トイレを探す

地図機能を用いて、外出先のオストメイト対応トイレの場所を簡単に検索できます。また、アイコンをタッチすることで、トイレの詳細な情報の確認やナビゲーション機能の利用、コメント追加・★評価ができます。



02 ストーマ外来設置医療機関を探す

オストメイトにとって、医師や看護師 (ET・WOCナース) による専門的なケアは非常に重要です。ストーマのケアを行う「ストーマ外来」を設置した医療機関を、簡単に検索できます。



03 ストーマ装具取扱店舗を探す

突然の災害や、緊急的にストーマ装具が必要となった場合に備えて、お店の情報を手軽に検索できます。



04 電子版 患者情報カード

急な医療機関の受診やお店でのストーマ装具の購入に備えて、ご自身のストーマに関連する情報を登録し、管理・携帯することができます。(急な医療機関の受診では、ストーマ造設時の情報やストーマ装具の情報を求められることがあります。)



05 新規トイレ情報の投稿

スマートフォン搭載のGPSを活用し、住所入力不要で、誰もが、いつでも、簡単にトイレ情報を投稿することができます。これにより、皆でオストメイト対応トイレマップを作り上げます。



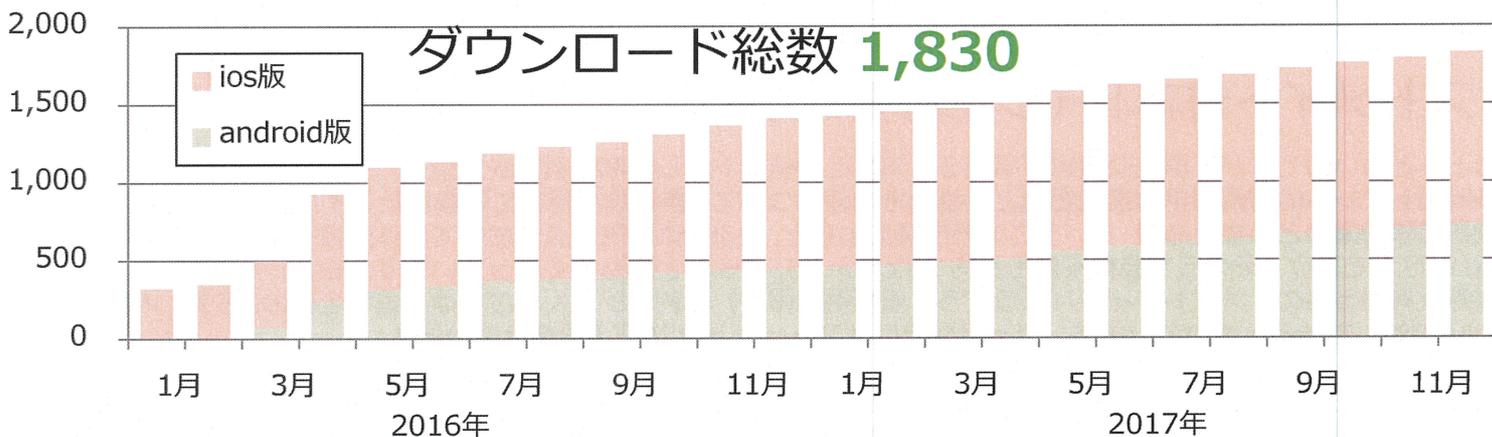
06 セミナー情報を知る

全国で開催されている最新のセミナー情報や相談会が掲載されています。セミナー申し込みがアプリから行え、開催場所へのナビゲーション機能がありますので気になるセミナーへそのまま参加することができます。

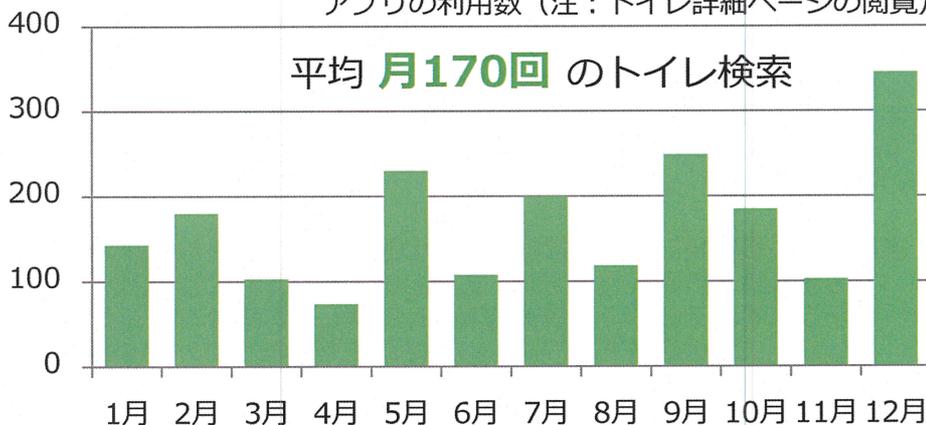
○ダウンロードと利用状況

ios版は2015年9月に一般リリース(ver 1.1)を行い、android版は2016年2月に一般リリース(ver 1.0)を行いました。この2017年にandroid版の累計ダウンロード数は500件を超え、iOS版も1,000件を超えました。2017年12月の時点で1,800名以上の方にダウンロード頂いています。

アプリのダウンロード数



アプリの利用数 (注: トイレ詳細ページの閲覧)



無料
ダウンロード

英語
対応



「オストメイトなび」の情報

「オストメイトなび」では、オストメイトに特化した様々な情報を収集し、アプリおよびWEBサイトを介して情報発信をおこなっている。加えて、各情報をオストメイトデータベース（ODB）として蓄積し、本ビッグデータを用いた、オストメイトの動向や関連製品に関するニーズ、オストメイト対応トイレの調査など、あらゆる分析・研究に繋げている。尚、研究にあたっては、大学付属の各研究機関およびそこに所属する研究者と取り組んでおり、学会発表を行っている。

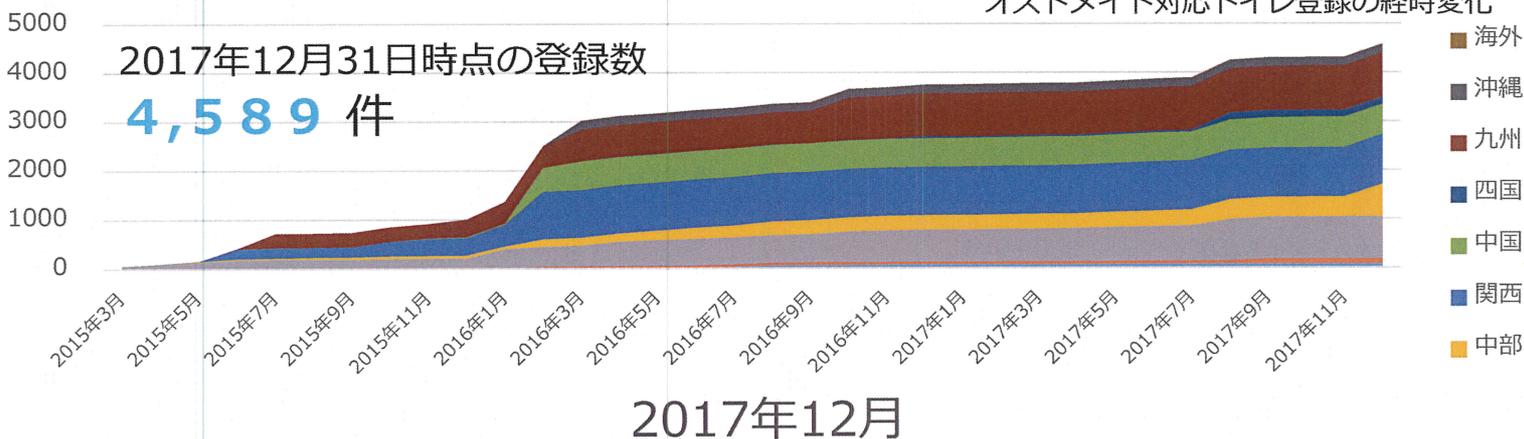
○オストメイトデータベース（ODB）_2017.12.31

#	データ名	データ収集状況	関連機能（情報配信）	機能の実装
1	オストメイト対応トイレ	4,589 施設	オストメイトマップ 機能	実装済み
2	ストーマ外来 設置医療機関	296 施設	オストメイトマップ 機能	実装済み
3	ストーマ装具 取扱店舗	88 施設	オストメイトマップ 機能	実装済み
4	オストメイト向け 健康相談会・セミナー	51回（終了含む）	相談会リスト 機能	2018.2リリース予定
5	オストメイト向け ニュース（情報配信）	330 記事	オストメイト情報局 機能	2018.2リリース予定
6	オストメイト患者・障害者団体	—	オストメイト情報局 機能	2018.2リリース予定
7	オストメイト向け ブログ	—	オストメイト情報局 機能	2018.2リリース予定
8	オストメイト向け 書籍	—	オストメイト情報局 機能	2018.2リリース予定
9	オストメイトに関連した 社会保障制度	—	オストメイト情報局 機能	2018.2リリース予定
10	オストメイトに関連したその他のWEBサイト	—	オストメイト情報局 機能	2018.2リリース予定
11	ストーマ関連メーカー他	—	オストメイト情報局 機能	2018.2リリース予定
12	オストメイト向け災害時マニュアル	—	災害時 機能	2019以降
13	オストメイト向け災害時掲示板	—	災害時 機能	2019以降
14	福祉避難所	—	災害時 機能	2019以降
15	自治体でのストーマ装具備蓄状況	—	災害時 機能	2019以降
16	被災地での仮設トイレ	—	災害時 機能	2019以降

○オストメイト対応トイレの登録状況

オストメイトなび（iOS版）リリース時の2015年5月において、わずか20件の登録数だったものが、2015年12月には1,009件、2016年12月には3,755件、2017年12月には4,589件の登録に至りました。これは自治体やJOA関係者の協力により地域ごとに50～100施設単位にまとまった情報の登録がされたことが理由の一つです。加えて、月あたりおよそ約50件のボランティアからの登録もこれを後押ししています。

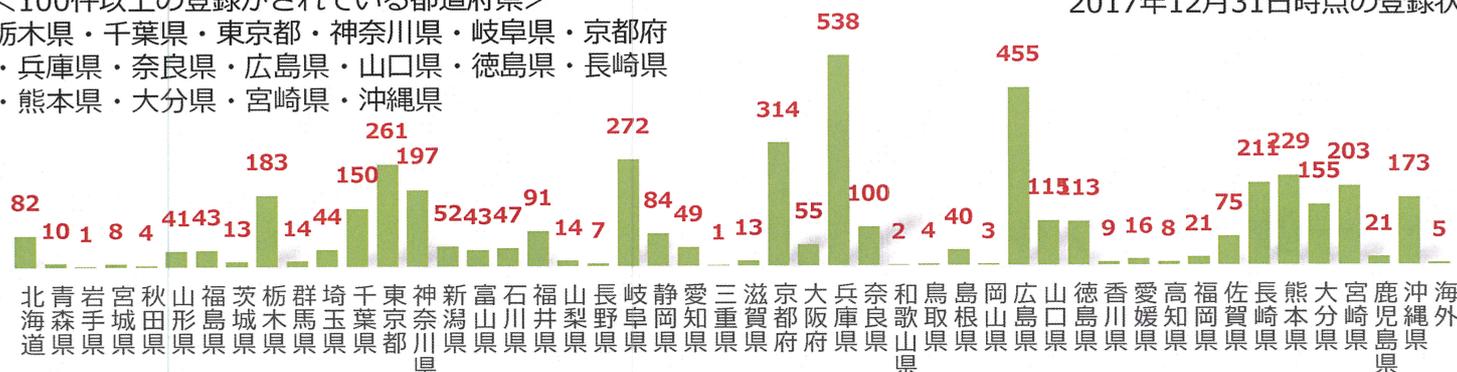
オストメイト対応トイレ登録の経時変化



<100件以上の登録がされている都道府県>

栃木県・千葉県・東京都・神奈川県・岐阜県・京都府
・兵庫県・奈良県・広島県・山口県・徳島県・長崎県
・熊本県・大分県・宮崎県・沖縄県

2017年12月31日時点の登録状況



活動内容 活動開始～2017年12月

実施日	対象	地域	活動内容
2015/2/7	医療×ITカンファレンス	東京	講演
2015/3/14	ブルーリボンキャンペーンセミナー	東京	チラシ配布
2015/3/15	日本オストミー協会20/40FG交流会	神奈川	ブース展示
2015/6/13	日本オストミー協会全国大会2015	奈良	ブース展示
2015/7/1	Appicare2015	東京	講演
2015/8/23	Appicare2015	東京	講演
2015/9/8	ファブラボ関内	神奈川	講演
2015/10/3	World Ostomy Day 2015	東京	講演・ブース展示
2015/11/20	慶應義塾大学OpenResearchForum2015	東京	研究会ポスター発表
2016/2/19	日本ストーマ排泄リハビリテーション学会2016	山梨	学会ポスター発表
2016/2/27	クラウドファンディング報告会	東京	講演・WS・ブース展示
2016/3/3	国立がんセンター公民館カフェ	東京	講演・WS・ブース展示
2016/4/29	ニコニコ超会議2016	東京	講演・ブース展示
2016/6/11	日本オストミー協会全国大会2016	青森	ブース展示
2016/6/19	日本オストミー協会京都府支部	京都	講演
2016/7/24	日本オストミー協会20/40FG	東京	ブース展示
2016/8/6	ジャパンキャンサーフォーラム	東京	ブース展示
2016/10/8	第58回全日本病院学会in熊本 2016	熊本	学会ポスター発表
2016/11/13	日本オストミー協会20/40FG	愛知	ブース展示
2016/12/27	南関東ブロック青年委員会研修会（衆議院第一会館）	東京	講演
2017/2/17	日本ストーマ排泄リハビリテーション学会2017	名古屋	学会ポスター発表
2017/3/19	日本オストミー協会20/40FG	神奈川	チラシ配布
2017/3/29	国際ストーマ排泄リハビリテーション学会	韓国	学会ポスター発表
2017/6/11	日本オストミー協会全国大会	埼玉	ブース展示・チラシ配布

掲載メディア



カテゴリー	活動内容	メディア
新聞	記事掲載	読売（全国版）、朝日（全国版）、毎日（全国版）、京都、神奈川、山口、デーリー東北、伊勢、河北、山梨日日、上毛、佐賀、宮崎日日、北海道、茨木、四国、福井、山陰、沖縄タイムス、長崎、山形、神戸、埼玉、山陰、信濃毎日
WEB	記事掲載	アピタル、バイオの杜、横浜経済新聞、あきらめないがん治療ネットワーク
専門誌	記事掲載	国立がんセンター活動報告、日本オストミー協会会報

今後の活動予定

2月	札幌	日本ストーマ排泄リハビリテーション学会（JSSCR）	発表
6月	愛媛	オストミー協会全国大会	ブース展示
7月	東京	エムアクト総会	

NPO法人エムアクト 基本情報

〒166-0003 東京都杉並区高円寺南4-11-17-202

HP : <http://www.m-akt.jp>

Facebook : <http://www.facebook.com/OstomateNavi>



私たちは、医療×IT×患者本意の実現を目指し、医療・ヘルスケア分野における問題や課題をITを用いて解決するために活動を行っています。

オストメイトなびプロジェクト

全国に約20万人いるオストメイト（人工肛門保有者、人工膀胱保有者）のQOL向上と社会的認知度向上を目的に、さまざまな視点から社会環境や仕組みをデザインし、広げていく活動です。「オストメイトなび」というオストメイトに特化したICTツールを用いて、様々なオストメイト関連情報の収集・配信を行います。

監修

名古屋大学大学院 医学系研究科 教授 前川 厚子

三重大学医学部 准教授 吉田 和枝

近畿大学医学部 名誉教授 進藤 勝久

相山女学園大学 看護学部 講師 竹井 留美

プロジェクト協力団体

公益社団法人 日本オストミー協会

オストメイトライフデザイン研究会

埼玉県済生会栗橋病院泌尿器科 小谷 桂子

協力自治体

佐世保市、雲仙市、大村市、大分県、佐賀県、宮崎県、熊本県、福岡市、広島県、山口県、静岡市、松戸市、佐倉市、岐阜県、三重県、長崎県、沖縄県（委託先NPO）、島根県

受賞歴

2016年1月 2015日本トイレ大賞（内閣官房） 優良事例として紹介

2016年10月 第一回日本トイレひとだ賞（日本トイレ研究所） 受賞



サポーター募集 & 寄付のお願い

オストメイトなびプロジェクトでは、この活動を継続的かつ全国規模のムーブメントにするために、活動を一緒に支援していただけるサポーターの募集と、寄付もお願いしております。

ご不明な点はお気軽にご連絡ください。



応援のかたち	区分	応援の内容	会費	特典ほか
サポーター	個人	ボランティアによる支援	—	 オリジナル缶バッジ
	個人	寄付による支援	—	
寄付	団体	寄付による支援	—	年次報告書 サイト掲載ほか
賛助会員	団体	総合的なサポート (知識・技術・広報ほか)	○	別途規約あり (お問い合わせ下さい)

問い合わせ窓口：オストメイトなび事務局（NPO団体エムアクト内／Eメール：info@m-akt.jp）